

第6回小田原交通圏タクシー事業適正化・活性化協議会
議 事 概 要

平成25年2月5日(金)
14:00~15:30
小田原箱根商工会議所

1. 開会

2. 「小田原交通圏タクシー事業適正化・活性化協議会設置要綱」の一部改正

～ 案のとおり承認され、神奈川運輸支局長大蔵幸雄が会長に選任された。～

会長 :

タクシーの特定地域については本年9月末で指定期間満了を迎えたが、まだ指定を解除する状況にないという判断がされ平成27年9月30日まで再指定された。今回は一つの区切りとして3年間の取組を検証した上でタクシーが公共交通機関として十分な機能を発揮できるよう、今後の取組の方向性についてご議論頂き地域計画の一部改正を行いたい。

3. 議事

(1) タクシー事業の適正化・活性化に係る3年間の取組の検証

～「タクシー事業の適正化・活性化に係る3年間の取組の検証」について、事務局より説明～

○委員(タクシー事業者代表):

この3年間、会員事業者には減休車の協力を頂き、目標に近づいてはいるが、まだまだ完全ではない。現時点を中間地点ととらえ、今後3年間、努力していきたい。

○委員(タクシー事業者):

活性化について、各会員事業者が目標を作成し現在取り組んでいるが、今後3年間、さらに邁進していきたい。

○委員(タクシー事業者):

地域計画の目標である「タクシーサービスの活性化」について、教育指導等に時間をかけ、お客様に喜ばれる良質なサービスを提供していく。

○委員(労働者代表):

3年間、事業者には減休車にご協力頂き、感謝している。

UDタクシーやEVタクシーを導入するにあたり、乗り場等を整備し、安全にお客様を輸送できる環境づくりをお願いしたい。

○委員（小田原箱根商工会議所）：

昨年の夏の観光動向は、ロンドンオリンピック等の影響により、全国的に観光地への出足は減少傾向にあり、当地においては前年並み若しくはやや減少傾向。

景況感は、震災で落ち込んだものからの回復にあり、交通運輸業が改善傾向にあるとの報告。

総務省の「家計調査報告」によると若い人たちはお金を出さない傾向にあり、高齢者の消費を取り込むことで需要の掘り起こしが期待できる。

なお、市民の立場からの意見として、タクシーが駅周辺でアイドリングストップを行わず、駐停車していることについて改善が必要ではないか。

○委員（タクシー事業者）

春と秋をアイドリングストップ月間として導入促進を図っているが、燃料高騰の中、協力していきたい。

駅前等の違法駐車について、警察から指摘を受け、支部としても警察と協力し市民に嫌われないように努力する。

○委員（箱根町）

環境先進観光地である箱根町では、神奈川県と連携し、地球温暖化の防止・都市環境の改善・石油依存度の低減等を図っており、2011年2月より、「箱根EVタウンプロジェクト構想」の一つとして、各事業者の協力の元、EVタクシー導入を促進している。

導入に当たっては、導入費補助、税制軽減、充電設置（急速充電器4カ所、普通充電器8カ所）等で支援し、今後、2016年までにEV車両40台導入に向け、新たな取組にチャレンジしていく。

○委員（中井町）：

中井町の現況は、人口1万人弱、昼夜間人口比127%、町内には鉄道駅が無く路線バスのみで、最寄りには小田急線秦野駅とJR二宮駅である。

交通空白地帯が存在し、起伏が激しく自転車移動も困難であり、交通弱者対策として路線バスとタクシーの中間的存在であるオンデマンドバスの運行を1月10日から開始。

平成24年度から公共交通会議を立ち上げ、行政だけでなく住民を交え、利用状況、ニーズを見ながら地域公共交通の充実をめざして取り組んでいく。

○委員（神奈川県）：

神奈川県が推進するEV車両の導入について、事業者におかれては協力頂き感謝している。

バス事業が不採算により路線を廃しする中、交通弱者対策として山北町でもタクシー事業者の協力を得て、バス事業者と連携し地域公共交通の維持に対応して頂いている。

○会長：

3年間の取組状況について、適正化及び活性化についてある程度一定の進捗がなされてきたところ。

しかしながら、目標達成とはなっていないので、引き続き取り組んでいく必要があるということを総括とさせて頂く。

(議題2) 今後の取組の方向性

～ 「今後の取組の方向性及び地域計画改正(案)」について、事務局より説明 ～

○委員(タクシー事業者代表):

全体的に交通事故が減少傾向にある中で、高齢者による事故は増加傾向にある。静岡県では運転免許証返納者に対しタクシーの利用補助を行っている。各自治体においても交通事故防止対策としてご検討願いたい。

また、2市8町及び神奈川県で使用できる共通チケットについて、どのタクシーでも利用できるようになり利便性が増加することから、共通チケット導入を検討願いたい。

○会長 :

小田原交通圏においては、依然としてタクシーを取り巻く環境が厳しく、解決すべき諸問題が存在していることから、タクシーが地域の公共交通機関としての役割を果たしていくため、引き続き適正化を進めることを前提に、活性化についても重点事項を絞って力をいれていくという方向で取り組むこととしたい。

～ 地域計画改正について案のとおり承認された。 ～

3. 閉会